

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 見附市立見附第二小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒954-0022
新潟県見附市杉澤町3561
E-mail mdaini@mituke-ngt.ed.jp
Website http://www.mituke-ngt.ed.jp/~mdaini/
幼児児童生徒数 男子 14名 女子 11名 合計 25名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要

① 「杉沢の森」「本明川」を中心に据えた自然体験活動の展開



地域のフィールド(杉沢の森や本明川)を中心とした自然観察・調査活動、自然保護活動により、子どもたちの自然を大切にしようとする意識が高まっている。

② 環境にやさしい取組(リサイクル活動、EM菌による給食の残食堆肥化、エコキャップ運動等、いわゆるエコ活動の実践や貢献)



リサイクル活動



エコカップ運動



EM菌による堆肥化

しっかり分別すれば燃やすゴミを減らし、二酸化炭素の量を減らせるなど、地球の温暖化と環境の関係に気づき、地球温暖化防止を目指したエコ活動の実践力が身に付いてきている。

③ 降積雪量観測の継続

昭和44年から、市の依頼を受け、グラウンド等の降積雪量観測を行っている。雪害対策の参考データにもなっている。その取組が認められ平成24年には内閣府社会貢献青少年表彰を受けた。今年度も継続して観測を行い、降積雪量の変化に目を向けている。統計資料の集積により温暖化傾向の状況をつかみ、地域社会へ貢献しようとする意識向上が図られている。



積雪量を計測する様子

④ 地域の伝統食を調べたり、作ったりして継承しようとする活動



青菜の栽培



サツマイモ掘り



青菜漬け



伝統食作り（煮菜）

地域人材から協力してもらい、望ましい食生活についての学習、野菜の栽培、伝統食作り等を行った。高学年児童は、食材の育ち方を学び、伝統的な食である煮菜作りにも挑戦した。児童は、文化の後継者としての自覚をもつことができた。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）」

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

- ・活動を年間指導計画に位置づけ、計画的に行っている。
- ・杉沢の森探検やエコ活動等で、教科と関連した指導を図っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

- ・校務分掌にユネスコスクール担当を配置し、地域・保護者と連携しながら組織的に取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

- ・ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込んでいる。児童の節電・節水等エコ活動の取り組み状況及び地域の里山を活かした特色ある活動について評価し、活動の質の向上に努めた。
- ・エコ活動への意識は、平成29年度前期児童アンケート調査では肯定的評価が96%だったが、後期は100%に上がった。しかし、保護者は逆に12%下がった。児童と保護者の意識のずれの原因を探る必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

- ・コミュニティスクールとしての機能を担い、学校の取り組みをホームページや学校運営委員会等で地域に知らせたことで、学校・保護者・地域で協力してエコ活動や伝統の継承活動等に取り組むことができた。
- ・見附市教育委員会主催の「スクールアカウンタビリティ」において、本校で取り組んでいるESD活動について、児童及び職員によるプレゼンテーションを行った

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

- ・ 地域のお花クラブの皆さんと一緒にやる栽培活動。
- ・ 地域コミュニティ・子育て福祉部・伝統交流部会の皆さんとやる青菜の栽培と煮菜作り。
- ・ 刈谷田川漁協・杉沢保全会の皆さんのご協力の下にやる本明川についての調べ活動やサケの飼育・放流等の活動
- ・ 「杉沢森の会」の皆さんから指導を受けながらの、森を守る自然保護活動や杉沢の森探検。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

- ・ 他のユネスコスクールとの交流は現在行っていない。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

- ・ 総合的な学習の時間や生活科を中心とした自然観察・調査活動、栽培活動、伝統食の調理等を行うことにより、児童一人一人が課題をもち、問題解決学習に取り組むことができた。また、高学年においては、食文化の継承者としての自覚も芽生えた。
- ・ 節電・節水、EM菌を使った残食の堆肥作り等、環境を考えた暮らし方を意識する児童が増えた。
- ・ 地域の食について学ぶことで、伝統食の後継者としての自覚を持つようになった。
- ・ 生活科・総合的な学習の時間の充実に向け、地域の教材や人材について情報交換したり、情報を共有したりしたりという協働が図られた。そのことにより、活動や学習が充実した。

(3) 平成30年度の活動計画

- ・今年度全校で取り組んできた活動については、来年度も活動を継続していく。
- ・エコ活動への意識は、平成29年度前期保護者アンケート調査では肯定的評価が84%だったが、後期は72%に下がった。回復するよう取り組んでいく。